

## 審 査 メ モ

## 1 未諮問基幹統計としての確認事項

作物統計調査（以下「本調査」という。）については、これまで統計委員会に諮問されていないことから、以下のような品質評価の要素に沿った見直し状況や基幹統計としての重要性及び必要性の充足状況等について確認する必要がある。

## (未諮問基幹統計としての確認について)

「公的統計の整備に関する基本的な計画」（平成26年3月25日閣議決定。以下「第Ⅱ期基本計画」という。）において、これまで統計委員会に諮問されていない基幹統計（未諮問基幹統計）については、社会経済情勢の変化等を踏まえ、「品質評価の要素に沿った見直し状況や基幹統計としての重要性及び必要性の充足状況等について計画的に確認する」とこととされている。

本調査は、旧統計法下における統計審議会答申「諮問第315号の答申 作物統計調査の改正について」（平成19年2月9日付け統審議第1号。以下「前回答申」という。）以降、これまで統計委員会に諮問されておらず、調査計画の内容が社会経済情勢の変化、統計ニーズに的確に対応したものとなっているか確認する必要がある。

未諮問基幹統計については、平成26年度から毎年度、対象となる統計を定めて計画的に統計委員会において確認が行われているところであり、確認に当たっては、「未諮問基幹統計の確認に対する取組方針」（平成26年10月20日統計委員会基本計画部会決定）に基づき、①公的統計の品質評価の要素、②基幹統計の法定要件の2つの視点から確認を行うこととされている（別添1〔19ページ<sup>(※)</sup>〕参照）。**※本審査メモのページ数。以下同じ。**

本調査についても、未諮問基幹統計に該当することを踏まえ、今回の部会審議の機会を捉え、上記取組方針に掲げられる確認の視点に照らし、以下の点について確認することが必要である。

## (確認事項)

- 1 本調査結果の行政施策上の具体的な利活用状況はどのようになっているか。また、行政施策以外での利活用状況はどうか。さらに、本調査結果の更なる有効活用が図られるような取組を行っているか。
- 2 本調査の調査対象となる作物は、作物の生産動向や政策ニーズ、利用者ニーズ等の観点から、適切に選定されているのか。
- 3 本調査は、地方農政局等の職員又は統計調査員による実測調査と、郵送又はオンラインによる自計調査により実施されている。また、水稻以外の作物について、作付面積調査は関係団体等を対象とした全数調査、収穫量調査は関係団体等を対象とした全数調査及び農業経営体を対象とした標本調査により実施されている（図1参照）。このことに関し、以下の点について説明願いたい。
  - ① 水稻以外の作物を対象とする調査の回収状況（全数調査及び標本調査における郵送・オンライン別の回収率、最近3か年）はどのようになっているのか。特に、オンライン回答率の向上を図るため、今後、どのような対策や取組を行うこととしているのか。
  - ② 上記調査方法を採用している理由は何か。調査内容、利活用状況、費用対効果等の観点から、実査上の課題等はないのか。

図1 各調査の報告を求める者及び調査方法

	報告を求める者	調査方法
<b>①面積調査</b>		
耕地面積調査	－	職員又は調査員による実測
作付面積調査		
水稻	－	職員又は調査員による実測
麦類、大豆、陸稲、かんしょ、飼料作物、野菜、花き、果樹、茶、てんさい、さとうきび、そば、なたね	関係団体等	郵送又はオンラインによる自計
<b>②作況調査</b>		
作柄概況調査	－	職員又は調査員による実測
予想収穫量調査		
収穫量調査		
水稻	－	職員又は調査員による実測
麦類、大豆、陸稲、かんしょ、飼料作物、野菜、花き、果樹、茶、てんさい、さとうきび、そば、なたね	関係団体、農業経営体等	郵送又はオンラインによる自計
<b>③被害調査</b>		
被害応急調査	－	職員による実測
共済減収調査		職員又は調査員による実測

4 本調査の調査対象作物に係る結果公表については、適切に実施されているか。公表の遅延等が見られる場合、その理由は何か。また、今後、適切な公表に向けてどのような対応を行うのか。

## 2 作物統計調査の変更

本調査について、調査計画における「調査対象の範囲」「調査周期」「報告を求める者」「報告を求める事項」等について、以下のとおり変更することとしている。

### (1) 調査対象の範囲の変更

#### 〔調査対象作物の範囲の変更〕

そば及びなたねについて、これまで「特定作物統計調査」<sup>(注1)</sup>（一般統計調査）において調査していたが、今後、本調査の調査対象作物に追加し、調査する。

(注1) 「諮問第279号の答申 作物統計調査等農作物等の生産に関する統計調査の改正について」（平成14年3月8日付け統審議第2号）において、作物統計調査の調査体系の整備を行う中で、「これまで作物統計調査の調査対象品目であった小豆、いんげん等6品目については、別途統計報告の徴集として生産等の実態の把握を行うこと」とされたことを受け、これらの作物の作付面積及び収穫量に関する実態を明らかにするために、平成14年度から毎年実施している調査である。

#### (審査状況)

本調査では、原則として、食料・農業・農村基本計画<sup>(注2)</sup>において生産努力目標が定められている作物の種類等を調査対象としている。

そば及びなたねについては、現在、特定作物統計調査（一般統計調査）において調査を実施している。

しかしながら、そば及びなたねについては、平成22年3月に続き、平成27年3月に閣議決定された現行の食料・農業・農村基本計画においても生産努力目標が設定されたことから、本調査の調査対象作物として追加することとしている。また、この追加に伴い、なたねの収穫量を把握する調査票を新設することとしている<sup>(注3)</sup>。

これについては、「諮問第279号の答申」（平成14年3月）（注4）における本調査の調査対象となる作物の選定基準を踏まえたものであること、また、そば及びなたねは平成25年度から行われている経営所得安定対策（注5）の対象作物とされ、国民の食生活上特に重要な作物とされていることから、おおむね適当であると考え、調査の目的等の観点から、その妥当性について検討する必要がある。

（注2）食料・農業・農村基本法（平成11年法律第106号）第15条の規定に基づき、食料、農業及び農村に関する施策についての基本的な方針等を定めた基本計画を策定することとされている。食料・農業・農村に関し、政府が中長期的に取り組むべき方針等を定めたものであり、情勢の変化等を踏まえ、おおむね5年ごとに変更することとされている。

（注3）従前の特定作物統計調査のうち、経営体を対象とするなたねの収穫量は、本調査において新たな調査票（「畑作物収穫量調査（経営体用）なたね（子実用）用」）を設けて把握することとしている。なお、①経営体及び団体を対象とするそばの作付面積及び収穫量、②団体を対象とするなたねの作付面積及び収穫量については、既存の調査対象作物の関係する調査票により調査を行うため、調査票の新設は行わないこととしている。

「経営体向け・なたね」に関しのみ調査票が新設されるのは、なたねは他の調査対象作物とは異なり、子実用として収穫されたものうち精油用のみを調査対象としているため、経営体向け調査票で把握する出荷先の割合において、他の調査対象作物では「加工業者」としている欄を、より具体的な「製油業者」として報告者の回答に紛れが生じないようにする必要があるのである。

（注4）「諮問第279号の答申 作物統計調査等農作物等の生産に関する統計調査の改正について」（抜粋）

1 今回の改正計画等

（1）農作物の生産に関する統計調査の調査体系

イ 作物統計調査の調査対象品目の選定基準

作物統計調査の調査対象品目については、今回、農業施策上の重要性や近年の生産動向を踏まえ、「調査対象品目の具体的考え方」を設け、1)食料・農業・農村基本法（平成11年法律第11号）に基づく食料・農業・農村基本計画に位置づけられている品目（中略）を選定することを計画している。

これについては、調査対象品目が生産動向又は政策ニーズに対応して選定されるものであることが明らかになるとともに、品目選定と透明性の向上に資するものであることから、おおむね適当と認められる。

しかしながら、品目選定の客観性と透明性のより一層の向上等を図る観点から、上記の具体的考え方については、調査対象品目に選定するか否かを判断するデータの種類、期間等について考え方を整理した上で、調査対象品目の選定基準（以下「選定基準」という。）として定めるとともに、（中略）2)基本計画の見直し時期に合わせて5年ごとに見直す旨を定めることが適当である。

（注5）諸外国との生産条件の格差による不利がある畑作物を生産する農業者に対する交付金など、農業者の経営安定に資するための施策をいう。

## （論点）

- 1 本調査と特定作物統計調査の関係や役割分担（棲み分け）は、どのような考えにより整理しているか。
- 2 そば及びなたねについては、平成22年に策定された食料・農業・農村基本計画において既に生産努力目標が設定されていたが、本調査でなく、今日まで特定作物統計調査において調査している理由は何か。

## （2）調査周期の変更

一部の作物について、作付面積調査及び収穫量調査の全国調査の調査周期を変更する。

## （審査状況）

本調査のうち、作付面積調査及び収穫量調査については、作物ごとに、原則、毎年又は3年周期（永年性作物（注1）である果樹及び茶の収穫量調査は5年周期）で全国調査を実施し、その中間年は主産県調査（注2）を実施してきた。

しかしながら、今回、統計リソースの効率的な活用や調査の簡素化・効率化を図る等の観点から、一部の作物について、図2のとおり、例えば、作付面積調査（全国調査）については、

陸稲、かんしょ等が毎年から3年周期に、また、収穫量調査（全国調査）については、陸稲が毎年から6年周期に変更することとしている。

ただし、経営所得安定対策の対象作物（麦類、大豆、そば及びなたね）については、作付面積調査及び収穫量調査ともに、調査結果の利活用を踏まえ、引き続き、毎年、全国調査を実施することとしている。

- (注1) りんご、なし等の果樹、茶、桑、永年性牧草や草木科作物（ホップなど）など果実や葉を収穫の対象とし、一度植付けたら長年に渡って収穫できる作物、又は数年間にわたって植換えるの必要がない作物をいう。  
 (注2) 作付面積が大きい都道府県から順に並べて、全国の作付総面積の80%を占めるまでの上位都道府県を対象として選定し実施する調査をいう。

図2 作物統計調査における全国調査の調査周期の見直しについて

【現行】全国調査の実施時期				【変更後】全国調査の実施時期			
作物統計	作物名	作付面積調査	収穫量調査	作物名	作付面積調査	収穫量調査	
	麦類	毎年	毎年	麦類	毎年	毎年	
	大豆			大豆			
	陸稲	毎年	3年	陸稲	3年	6年	
	かんしょ			かんしょ			
	飼料作物			飼料作物			
	野菜	3年		野菜	3年		
	花き			花き			
	果樹	毎年	5年	果樹	6年	6年	
	茶			茶			
	てんさい	※1	※1	てんさい	※1	※1	
	さとうきび	※2	※2	さとうきび	※2	※2	
				そば	毎年	毎年	
			なたね	毎年	毎年		

- ※1 「てんさい」については、毎年北海道の区域について調査を実施（変更なし）  
 ※2 「さとうきび」については、毎年鹿児島及び沖縄の区域について調査を実施（変更なし）

(参考) 特定作物統計調査における全国調査の調査周期の見直しについて

【現行】全国調査の実施時期				【変更後】全国調査の実施時期			
特定作物	作物名	作付面積調査	収穫量調査	作物名	作付面積調査	収穫量調査	
	そば	毎年	毎年		3年	6年	
	なたね			豆類			
	豆類	毎年	3年	こんじやくいも	3年	6年	
	こんにやくいも	3年		い	※3	※3	
い	※3	※3					

- ※3 「い」については、毎年福岡及び熊本の区域について調査を実施（変更なし）

これについては、報告者負担の軽減等の観点から、おおむね適当であると考えているが、変更に伴う支障がないか等について検討する必要がある。

(論点)

- 1 全国調査の調査周期は作物の種類により異なる中で、現行及び変更後の調査周期はどのような考え方に基づいて設定された（設定される）ものか。
- 2 全国調査の調査周期の変更に伴い、主産県調査の年は、直近の全国調査における主産県以外の都道府県に係る調査結果（全国値に占める主産県以外の都道府県値の割合）を基に全国値を推計して公表することとしている。このことに関し、どのような考え方で、主産県調査から全国値を推計するのか、具体例を挙げて説明してほしい。また、調査周期を変更しても主産県調査年の全国推計の精度は保たれるのか。

- 3 全国調査の調査周期の変更については、利活用ニーズとの関係からみて、問題はないのか。また、食料・農業・農村基本計画では、10年後の「生産努力目標」が定められ、おおむね5年ごとに見直すこととされている。今回の変更では、全国調査の周期を3年又は6年に統一することとなり周期が一致しない。生産努力目標の検証に当たっては、全国調査の結果による正確な調査結果の利用が適当とも思われるが、問題はないのか。

### (3) 報告を求める者の変更

#### ア 標本経営体調査における標本設計の変更

水稻以外の作物に関する収穫量調査において、前回答申<sup>(注1)</sup>における「今後の課題」(標本経営体<sup>(注2)</sup>に係る標本設計の検討)への対応結果を踏まえた標本設計の見直しを行う。

(注1) 「諮問第315号の答申 作物統計調査の改正について」(平成19年2月9日付け統審議第1号)(抄)

##### 2 今後の課題

##### (1) 標本経営体に係る標本設計の検討

今回の調査計画における標本経営体の標本設計については、単収等の誤差情報に係るデータが十分そろっていない段階での設計であるが、実査を通じて、関係団体及び標本経営体から得られた作付面積、自家消費用及び贈答用を含めた収穫量、単収等に係るデータの検証を行い、必要なデータを得て、できるだけ早期に、分布状況、標準誤差、目標精度等を踏まえたより適切な標本設計、標本配置等に向けた検討を行うことが必要である。

(注2) 農林業センサスの結果に基づき整備された母集団情報から無作為に抽出した農業経営体(個人出荷農家等)をいう。なお、調査は、一部の作物を除き、関係団体を対象とする全数調査と農業経営体を対象とする標本経営体調査から成る。

#### (審査状況)

水稻以外の作物に関する収穫量調査については、平成19年度調査から、

- ① 関係団体(JA等)を対象とする全数調査及び
- ② 母集団名簿情報から無作為に抽出した標本経営体調査により実施している。

このうち、標本経営体調査については、これまで、農林業センサス結果に基づく母集団名簿情報から、一定の抽出率、見込まれる出現率及び回収率により算出した標本数を対象とし、作物ごとに作付面積規模により階層区分を設定の上、階層別の面積ウェイトに基づいて標本数を配分して階層ごとに無作為に抽出を行っていたところである。

しかしながら、今回、前回答申における「今後の課題」に対応し、以下のとおり変更することとしている。

- ① 各作物ごとに、重要度及び利活用状況を踏まえ、全国ベースの調査精度(作物ごとに2~3%)が確保されるよう、全国収穫量に占める都道府県の累積収穫量シェアに応じて都道府県別に目標精度を設定
- ② 関係団体調査は全数調査であるため標本誤差が生じないことを踏まえ、収穫量に占める関係団体シェア分を除いた標本経営体調査分の標準誤差率を算出
- ③ 上記①で算出した標準誤差率、これまで実施してきた標本経営体調査における実績有効回答数及び実績精度(結果精度)から、必要有効回答数を算出。これを実績有効回答率で除すことにより、都道府県ごとの調査対象数を算出
- ④ また、野菜、果樹等、露地栽培とビニールハウス等による施設栽培において単位収量が大きく異なる作物については、都道府県ごとに作付形態別階層区分(露地、施設等)を設け、当該作物の作付面積に比例して調査対象数を配分

これについては、おおむね適当であると考え、利活用等を踏まえ、必要かつ十分な標本設計となっているか検討する必要がある。

## (論点)

- 1 前回答申における「今後の課題」に対するこれまでの検討状況及び今回の標本設計(調査対象者数の算出、標本配分及び標本抽出等)の見直しについて、具体的な変更内容はどうなっているのか。また、従前の標本設計と比べ、結果精度の確保等の面でどのような改善が図られる見込みか。
- 2 今回の変更において、新たに目標精度を設定することとしているが、当該目標精度はどのような考え方にに基づき設定しているのか。利活用ニーズとの関係からみて、問題はないのか。
- 3 今回の変更により、各調査対象品目等に係る報告者数はどのように変化するのか。従前に比べ過大なものとなっていないか。

### イ 花き調査における標本設計の変更

花き調査について、調査の正確性向上のため、これまでの有意抽出から、他の作物と同様の標本設計に変更する。

## (審査状況)

花きにおける作付面積調査及び収穫量調査については、これまでは、以下の報告者等を対象としていた(注)。

- ① 花きを取り扱う集出荷団体等のうち年間出荷金額が5,000万円以上の集出荷団体等
- ② 農林業センサスにおいて花き・花木を販売する農業経営体のうち年間販売金額が2,000万円以上の関係団体等以外に出荷した個人出荷農家等

平成19年度調査以降、これらの報告者に対して全数調査を実施し、作付面積、収穫量の変動率を前年度の値に乗ずることにより、当年度の作付面積及び収穫量を推計していたが、今回の変更では、他の調査対象作物と同様に、集出荷団体等への全数調査、農業経営体への標本経営体調査に変更することとしている。

これについては、調査の正確性の向上等の観点から、適当であると考える。

(注) 花きについては、作付面積調査、収穫量調査とも、集出荷団体等及び個人出荷農家等を対象としていた。

(4) 報告を求める事項の変更

ア 麦類の作付面積調査に係る調査事項の変更

麦類の作付面積調査（新様式第5号）において、えん麦及びらい麦の把握を廃止するとともに、小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦の飼料用及び肥料用を廃止し、子実用<sup>(注)</sup>のみの把握に変更する。

(注) 主に食用に供すること（子実生産）を目的とするもの。

平成 29 年度調査（案）

様式第5号（団体用作付面積調査・収穫量調査調査票） 麦類（子実用）

【1】貴団体で集荷している作付面積及び集荷量について

- 記入上の注意**
- 作付面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。0.05ha未満の場合は「0.0」と記入してください。
  - 集荷量は単位を「t」とし、整数で記入してください。0.5t未満の結果は「0」と記入してください。
  - **主に食用(子実用)とするものについて記入してください。緑肥用や飼料用は含めないでください。**
  - 「うち検査基準以上」欄には、1等、2等に加え規格外のうち規格外Aとされたものの合計を記入してください。
  - 検査を受けない場合や、提出日までに検査を受けていない場合などは、集荷された農作物の状態から検査基準以上となる量を見積もって記入してください。

品目名	作付面積 (田畑計)	田		畑		集荷量	うち検査基準以上
		ha	ha	ha	ha		
小麦	前年産	ha	ha	ha	ha	t	t
	本年産						
秋まき (北海道のみ)	前年産	ha				t	t
	本年産						
春まき (北海道のみ)	前年産	ha				t	t
	本年産						
二条大麦	前年産	ha	ha	ha	ha	t	t
	本年産						
六条大麦	前年産	ha	ha	ha	ha	t	t
	本年産						
はだか麦	前年産	ha	ha	ha	ha	t	t
	本年産						

※調査票を統合したため、新様式では集荷量（右側枠囲み部分）が追加されている。詳細は、後記（5）アを参照

平成 28 年度調査（現行）

（団体用作付面積調査調査票A）

貴団体管内の作付状況について、以下の作物ごとに記入してください。

1 麦類の作付面積 単位：ha

作物名	作付面積 (田畑計)	田	畑		
			子実用	青刈り用	飼料用
小麦	前年産				
	本年産				
秋まき (北海道のみ)	前年産				
	本年産				
春まき (北海道のみ)	前年産				
	本年産				
二条大麦	前年産				
	本年産				
六条大麦	前年産				
	本年産				
はだか麦	前年産				
	本年産				
えん麦	前年産				
	本年産				
らい麦	前年産				
	本年産				

※ 作付面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。  
 ※ 青刈り用には飼料用のほかに**肥料用**が含まれます。なお、作物等の被覆用として作付けされるものについては、青刈り用を含めずに田・畑欄に含めて記入してください。

引き続き次のページへお進みください。

(審査状況)

えん麦・らい麦については、子実用についての生産<sup>(注1)</sup>はごくわずかであり、飼料用としての生産についても飼料作物全体に占める割合は1%未満であることに加え、それ以外については、他の農作物生産のための肥料用<sup>(注2)</sup>としての作付けである。

また、4麦(小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦)については、そのほとんどが子実用(4麦計の作付面積に占める割合は約98%)であり、子実用を把握することにより4麦の作付面積もほぼ把握できるとして、図3のとおり、個別品目及び用途別面積の把握を廃止することとしている。

(注1) 子実用えん麦の作付面積は、平成27年で158haであり、子実用麦全体の作付面積の0.1%未満である。子実用らい麦については、生産が少ないことから、従前より作付面積を把握していない。

(注2) 肥料用については、一定程度生育した後、収穫せずに、トラクター等で土壌にすきこみされる。なお、肥料用として、青刈り面積に占める割合はえん麦約86%、らい麦約76%である。

図3 麦類の作付面積調査の変更について

【現行】					【変更後】				
作物名	面積計	子実用	青刈り用	飼料用	作物名	子実用			
小麦	○	○	○	○	小麦	○			
二条大麦	○	○	○	○	二条大麦	○			
六条大麦	○	○	○	○	六条大麦	○			
はだか麦	○	○	○	○	はだか麦	○			
えん麦	○	○	○	○					
らい麦	○		○	○					

これについては、調査の簡素化・効率化や報告者負担の軽減等の観点から、おおむね適当であると考えますが、利活用等について確認しておく必要がある。

(論点)

- 1 現在の麦類に係る調査結果の経年変化等はどうなっているのか(過去3か年)。
- 2 本調査事項を簡素化することとした経緯・理由は何か。
- 3 本調査事項の簡素化に関し、利活用の観点からは支障はないのか。
- 4 農林水産省が環境保全型農業を推進する中で、青刈り用えん麦等の面積を把握する必要はないのか<sup>(注)</sup>。

(注) 環境保全型農業とは、農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業をいい、農林水産省は、環境保全型農業の全国的展開を推進している。

連作栽培(毎年同じ場所に同じ種類の野菜を栽培)により、土壌中の微生物のバランスが崩れ、病害微生物が発生し、野菜が生育しなくなる「連作障害」が発生することがある。この連作障害対策として、環境保全型農業の推進の観点から、野菜収穫後にえん麦等の青刈作物を導入し、土壌管理や土壌環境を整えるといった対応が行われている。



イ 飼肥料作物の作付面積調査に係る調査事項の変更

飼肥料作物の作付面積調査（新様式第6号）において、主に飼料用とするものに関するものについて把握することとし、肥料用の作付面積の把握を廃止するとともに、把握品目を牧草、青刈りとうもろこし及びソルゴーの3品目（現行11品目）並びに飼料作物計に変更する。

平成 29 年度調査（案）

様式第6号（団体用作付面積調査・収穫量調査調査票） 飼料作物、かんしょ、そば、なたね（子実用）

【1】貴団体内の作付(栽培)面積及び集荷量について

記入上の注意

- 作付(栽培)面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。0.05ha未満の場合は「0.0」と記入してください。
- 集荷量は単位を「t」とし、整数で記入してください。0.5t未満の結果は「0」と記入してください。
- <作物ごとの注意事項>

「主に飼料用（家畜のえさ用）とするものについて記入して下さい。緑肥用は含めないで下さい。」旨の注意書きを記載する。

品目名	作付(栽培)面積 (田畑計)	田		畑		集荷量	
		田	畑	田	畑	集荷量	うち検査基準以上
前年産	ha	ha	ha	ha	ha	t	t
本年産							
前年産	ha	ha	ha	ha	ha	t	t
本年産							
前年産	ha	ha	ha	ha	ha	t	t
本年産							
前年産	ha	ha	ha	ha	ha		
本年産							

作物名(牧草、青刈りとうもろこし等)をプレプリントする

※調査票を統合したため、新様式では集荷量（右側枠囲み部分）が追加されている。詳細は、後記（5）アを参照

平成 28 年度調査（現行）

様式第5号（団体用作付面積調査調査票D）

4 飼肥料作物の作付(栽培)面積

単位：ha

作物名	作付(栽培)面積 (田畑計)	田		畑	
		田	飼料用	畑	飼料用
牧草	前年産				
	本年産				
青刈りとうもろこし	前年産				
	本年産				
刈りソルゴー	前年産				
	本年産				
その他	前年産				
	本年産				
青刈り稲	前年産				
	本年産				
れんげ	前年産				
	本年産				
その他飼肥料作物	前年産				
	本年産				

- ※ 作付(栽培)面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。
- ※ 青刈り作物のその他には、青刈り大豆等の飼料用や肥料用が含まれますが、青刈り麦類(小麦、二条大麦、六条大麦、はだか麦、えん麦、らい麦)については除いてください。
- ※ なお、青刈り稲については、飼料用として作付けしたのについて記入してください。しめ縄等の加工用や肥料用として作付けしたものは除きます。
- ※ その他飼肥料作物には、飼料用かぶ、クロタラシア等が含まれます。

(審査状況)

飼料作物については、牧草、青刈りとうもろこし及びソルゴの3品目の作付面積で、全体の約87%を占めること、肥料作物については、最終的に収穫される生産物がないことから、図4のとおり、3品目以外の品目の把握及び肥料用作付面積の把握を原則として廃止することとしている。

なお、飼料作物計の算出に必要なその他飼料作物の作付面積については、3年周期で実施する全国調査年に併せて把握し、中間年については推定することとしている。

図4 飼肥料作物の作付面積調査の変更について

【現行】			【変更後】		
作物名	飼肥料計	飼料用	作物名		飼料用
飼肥料作物計	○	○	飼料作物計		○
牧草	○	○	牧草		○
青刈りとうもろこし	○	○	青刈りとうもろこし		○
ソルゴ	○	○	ソルゴ		○
青刈り麦類計	○	○			
青刈りえん麦	○	○			
青刈りらい麦	○	○			
青刈りその他麦	○	○			
その他青刈り作物	○	○			
青刈り稲		○			
れんげ	○	○			
その他飼肥料作物	○	○	その他飼料作物		○

これについては、調査の簡素化・効率化や報告者負担の軽減等の観点から、おおむね適当であると考えるが、利活用等について確認しておく必要がある。

(論点)

- 1 現在の飼肥料作物に係る調査結果の経年変化等はどうなっているのか（過去3か年）。
- 2 本調査事項を簡素化することとした経緯・理由は何か。
- 3 本調査事項の簡素化に関し、利活用の観点から支障はないのか。

ウ 茶の収穫量調査に係る調査事項の変更

茶の収穫量調査について、茶種別の把握を廃止するとともに、茶期別の把握を年間計及び一番茶（現行6分類）に変更する。

平成 29 年度調査（案）

様式第 15 号（団体用収穫量調査調査票） 茶

記入上の注意

- 本年産の貴工場における生葉の処理量及びそれに対応する摘採面積を茶期ごとの合計及びうち一番茶について記入してください。
- 整枝・せん定をかねて刈り取った茶葉についても、荒茶に加工（刈り番茶）される場合は、集荷量、荒茶生産量及び摘採延べ面積に含めてください。
- 摘採延べ面積は、摘採した面積の合計を記入してください。

項目	年間計		うち一番茶
生葉集荷 (処理)量	前年産	t	t
	本年産		
荒茶生産量	前年産	kg	kg
	本年産		
摘採面積	前年産	ha (畝) (畝)	ha (畝) (畝)
	本年産		
摘採延べ面積	前年産	ha (畝) (畝)	
	本年産		

平成 28 年度調査（現行）

様式第 5 号（団体用作付面積調査調査票 D）

- 2 1で集荷（処理）を行ったとお答えの場合は、本年産の貴工場における生葉の処理量及びそれに対応する摘採面積を茶期ごとに記入してください。  
 なお、各茶期の終期に整枝・せん定をかねて刈り取った茶葉について、荒茶に加工（刈り番茶）される場合は集荷量に含めてください。

	冬春番茶	一番茶	二番茶	三番茶	四番茶	秋冬番茶
生葉集荷 (処理)量	前年産	t	t	t	t	t
	本年産					
摘採面積	前年産	ha a (畝) (畝)	ha a (畝) (畝)	ha a (畝) (畝)	ha a (畝) (畝)	ha a (畝) (畝)
	本年産					

【2】 茶種別の荒茶生産量について

本年産の茶種別荒茶生産量について、茶期ごとの生産量を記入してください。  
 （単位は「kg」でご記入ください。）

		冬春番茶	一番茶	二番茶	三番茶	四番茶	秋冬番茶
荒茶生産量	普通せん茶	前年産					
		本年産					
	玉露	前年産					
		本年産					
	かぶせ茶	前年産					
		本年産					
	てん茶	前年産					
		本年産					
	玉緑茶	前年産					
		本年産					
	番茶	前年産					
		本年産					
その他	前年産						
	本年産						

## (審査状況)

茶については、①関係団体（全国茶生産団体連合会<sup>(注1)</sup>）において、別途、茶期別、茶種別の生産量、価格等の詳細なデータを把握しており、行政施策上、民間データにより代替が可能であること、②食料・農業・農村基本計画における生産努力目標として示されている数値は茶期別でなく茶全体の数量として示されていることから、図5のとおり、茶種別及び茶期別の把握を廃止することとしている。

ただし、茶期別のうち一番茶については、農業災害補償制度<sup>(注2)</sup>の対象であるため、引き続き調査を実施することとしている。

この変更に伴い、これまで茶期別集荷（処理）量の合計で把握していた生葉集荷（処理）量の年間計、茶期別摘採面積の合計で把握していた摘採面積の年間計及び茶期別・茶種別の生産量の合計で把握していた荒茶生産量の年間計については、新たに年間計の調査項目を設定することとし、また、摘採面積の年間計については、摘採実面積及び摘採延べ面積<sup>(注3)</sup>に分割して把握することとしている。

- (注1) 茶の生産の安定的振興を推進し、茶業の健全な発展を図ることを目的として、昭和45年に設立された生産者団体である。  
 (注2) 国の農業災害対策として実施している公的な保険制度。農業者が出し合った共済掛金を原資として、自然災害により被害があった農業者に、被害程度に応じて共済金が支払われる。  
 (注3) 茶の収穫（摘採）は地域により異なるが、一番茶から四番茶、秋冬番茶まで一年の間に複数回の収穫を行うことから、この各茶期において実際に収穫を行った面積の合計（同じ箇所を複数回収穫した場合は重複して計上）を「摘採延べ面積」としている。一方、年間を通じて実際に収穫を行った実面積（同じ箇所を複数回収穫した場合でも1回として計上）を「摘採実面積」としている。

図5 茶の収穫量調査の変更について

【現行】				【変更後】			
	合計及び茶種別 <sup>(注)</sup>				合計		
	摘採面積	生葉収穫量	荒茶生産量		摘採面積	生葉収穫量	荒茶生産量
年間計	○	○	○	年間計	○	○	○
一番茶	○	○	○	一番茶	○	○	○
二番茶	○	○	○				
三番茶	○	○	○				
四番茶	○	○	○				
冬春秋番茶	○	○	○				

(注) 茶種別は、玉露、かぶせ茶、てん茶、普通せん茶、玉緑茶、番茶、その他。

これについては、調査の簡素化・効率化や報告者負担の軽減等の観点から、おおむね適当であると考えるが、利活用等について確認しておく必要がある。

## (論点)

- 1 現在の茶に係る調査結果の経年変化等はどうなっているのか（過去3か年）。
- 2 本調査事項を簡素化することとした経緯・理由は何か。
- 3 本調査事項の簡素化に関し、利活用の観点から支障はないのか。
- 4 上記3とも関連するが、民間団体によるデータが本調査の調査結果と代替可能であると判断したことに関連し、以下について説明願いたい。
  - ① 全国茶生産団体連合会における調査の概要（調査対象、調査内容、調査結果の公表時期等）
  - ② 全国茶生産団体連合会の公表データは、本調査の結果を補完する内容となっているか。
  - ③ 全国茶生産団体連合会の調査実施の継続性

(5) 調査票の変更等

**ア 作付面積調査票及び収穫量調査票の統合等**

陸稲（新様式4）、麦類（新様式5）、かんしょ及び飼料作物（新様式6）の関係団体用調査票について、作付面積調査票及び収穫量調査票を統合する。

また、飼料作物の作付面積調査については、調査実施時期及び公表時期を変更する。

**(審査状況)**

調査の正確性の向上及び報告者負担の軽減を図るため、陸稲、麦類、かんしょ及び飼料作物の関係団体用調査票について、作付面積調査票と収穫量調査票を統合することとしている（変更の詳細は、別添2〔21～24ページ〕参照）。

また、これらのうち飼料作物については、これまで作付面積調査と収穫量調査を別々の時期に実施していたところ、今回の変更において、調査実施時期をそろえることとしており（図6参照）、これに伴い、公表時期についても、図7のとおり、3月上旬にまとめて公表（従前、作付面積調査は1月下旬、収穫量調査は2月下旬に公表）することとしている。

図6 飼料作物の調査実施時期の変更について

【現行】調査実施時期			➔	【変更後】調査実施時期		
区分	作付面積調査	収穫量調査		区分	作付面積調査	収穫量調査
飼料作物	10月～11月頃	12月～1月頃		飼料作物	12月～1月頃	12月～1月頃

図7 飼料作物に係る調査結果の公表時期の変更について

【現行】公表時期			➔	【変更後】公表時期		
区分	作付面積調査	収穫量調査		区分	作付面積調査	収穫量調査
飼料作物	1月下旬	2月下旬		飼料作物	3月上旬	3月上旬

これについては、調査票の統合により、関係団体における作付面積及び収穫量の一体的な審査・検討が可能となり、また、報告者負担の軽減を図るとともに、調査結果の利活用状況を踏まえて変更するものであることから、おおむね適当であると考えますが、更なる効率化等について検討する必要がある。

**(論点)**

- 1 陸稲、麦類、かんしょ及び飼料作物に係る調査についてのみ調査票を統合している理由は何か。調査の更なる効率的実施の観点から、他の作物に係る調査票についても統合する余地はないか。
- 2 飼料作物について、公表時期の変更が統計ニーズや統計利用者の利便性等の関係で支障等はないか。

**イ 野菜指定産地用の調査票の作成等**

野菜の作付面積や出荷量等を把握する関係団体用調査票について、従前の野菜に係る調査票を分離し、新たに野菜指定産地用の調査票を作成し、当該調査票には指定産地名及び市町村名等をプレプリントする。

## (審査状況)

野菜調査における関係団体調査（春植えばれいしょ（新様式9）及び野菜（新様式10））については、それぞれの野菜の収穫・出荷がおおむね終了する時期に関係団体等へ調査票を送付し、回収している。

野菜調査の調査対象となっている品目のうち、指定野菜14品目<sup>(注1)</sup>については、野菜生産出荷安定法（昭和41年法律第103号）の規定に基づき農林水産大臣が「指定野菜の種別ごとに、その区域から当該指定野菜の出荷が行われる一定の生産地域であって、その出荷の安定を図るため当該指定野菜の集団産地として形成することが必要と認められるもの」について「野菜指定産地」として指定できる旨が規定されており（同法第4条）、その指定や解除に必要な資料であることから、野菜指定産地に含まれる市町村（以下「指定産地市町村」という。）<sup>(注2)</sup>の作付面積、出荷量等を同様に調査し、公表している。

指定産地市町村の統計値を作成するため、従前は、関係団体の管轄する範囲に所在する野菜指定産地市町村ごとに調査票を記入・報告<sup>(注3)</sup>してもらっていたが、今回、報告者負担の軽減等を図る観点から、野菜指定産地用の調査票を新たに作成（新様式11。現行の別記様式16号から分離）し、今後は当該調査票1枚に指定産地ごとに調査結果を記入する形に変更するとともに、記入誤り、記入漏れ等を防ぐため、「品目名」「主たる収穫・出荷期間」「指定産地名」「市町村名」及び「前年値（作付面積、出荷量）」を事前にプレプリントすることとしている（変更の詳細は、別添3〔25～26ページ〕参照）。

これについては、報告者負担の軽減を図るものであること、また、プレプリントすることにより、記入漏れ等が防止され、報告の正確性が確保されるものであることから、適当であると考えられる。

(注1) だいこん、にんじん、ばれいしょ、さといも、はくさい、キャベツ、ほうれんそう、レタス、ねぎ、たまねぎ、きゅうり、なす、トマト及びピーマン。

(注2) 指定野菜の生産地域であって、野菜出荷安定法に定める作付面積及び共販率を満たす産地について、農林水産大臣が指定する産地。

(注3) 平成26年の野菜指定産地市町村数は延べ2,437であり、当該市町村を管轄する関係団体では、管轄範囲の合計を記入した調査票の他、指定産地市町村分として、平均すると2枚程度（2市町村分）の調査票を報告している。なお、管轄する範囲が広域となる関係団体では、最大で8枚程度（8市町村分）の調査票を報告する場合がある。

**ウ 収穫量の増減要因等の記載様式の変更**

関係団体用の収穫量調査における収穫量の増減要因等について、記載様式を記述方式から選択方式に変更する。

<変更の例>

平成 29 年度調査（案）																																																												
様式第 4 号（団体用作付面積調査・収穫量調査調査票）																																																												
<p><b>【 3 】 収穫量の増減要因等について</b>                      前年産に比べて本年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の要因について記入してください。                      （該当のある場合は、点線を鉛筆などでなぞってください。）</p>																																																												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 20%;">作物名</th> <th colspan="3">作柄の良否</th> <th colspan="3">被害の多少</th> <th colspan="7">主な被害の要因（複数回答可）</th> </tr> <tr> <th style="width: 5%;">良</th> <th style="width: 5%;">並</th> <th style="width: 5%;">悪</th> <th style="width: 5%;">少</th> <th style="width: 5%;">並</th> <th style="width: 5%;">多</th> <th style="width: 5%;">高温</th> <th style="width: 5%;">低温</th> <th style="width: 5%;">日照不足</th> <th style="width: 5%;">多雨</th> <th style="width: 5%;">少雨</th> <th style="width: 5%;">台風</th> <th style="width: 5%;">病害</th> <th style="width: 5%;">虫害</th> <th style="width: 5%;">鳥獣害</th> <th style="width: 5%;">その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">陸稲</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> </tbody> </table>													作物名	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因（複数回答可）							良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他	陸稲	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
作物名	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因（複数回答可）																																																					
	良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他																																												
陸稲	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/																																											
<p>作物ごとに被害以外の増減要因（品種、栽培方法などの変化）があれば、記入してください。</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>																																																												
平成 28 年度調査（現行）																																																												
様式第 7 号（団体用収穫量調査調査票） 陸稲、麦類、大豆、かんしょ及び飼料作物																																																												
<p><b>【2】 生育、作柄及び被害の状況について</b>                      生育、作柄及び被害の発生状況等について、記入してください。</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>																																																												

**（審査状況）**

関係団体用の収穫量調査における収穫量の増減要因等については、これまで記述方式により回答していたが、記述方式の場合、報告者の負担感が大きいことに加え、記入漏れや記入内容のばらつき等が発生しやすいという問題を抱えているとして、今回の変更で、選択方式による回答に変更することとしている（上記の図は、陸稲に係る関係団体用の収穫量調査の変更例。その他変更の詳細は、別添 4 [27～32ページ] 参照）。

これについては、報告者負担が軽減されるとともに、調査票の審査等をより適切に実施することが可能となることから、適当であると考えます。

**エ 精糖会社及び農業経営体用の収穫量調査における主な被害の要因の変更**

精糖会社及び農業経営体用の収穫量調査における主な被害の要因に、鳥獣害の選択肢を追加する。

<変更の例>

平成 29 年度調査（案）											平成 28 年度調査（現行）									
様式第 17 号（経営体用収穫量調査調査票） 陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ											様式第 8 号（経営体用収穫量調査調査票） 陸稲、麦類、大豆、かんしょ									
主な被害の要因（複数回答可）																				
高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他		高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	その他	
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/										
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/										
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/										

**（審査状況）**

精糖会社及び経営体用の収穫量調査における主な被害の要因について、近年の鳥獣害による被害が増加しているとして（注）、鳥獣害の選択肢を追加することとしている（上記の図は、畑作物に係る経営体用の収穫量調査の変更例。その他変更の詳細は、別添 4 [33～36ページ] 参照）。

なお、団体用の収穫量調査については、記載様式を選択方式に変更する際、選択肢に追加している（上記（5）ウ参照）。

これについては、収穫量の増減要因のより正確な把握が可能となることから、適当であると考える。

（注）農林水産省HPで公表している「鳥獣被害の現状と対策」（平成28年3月）によると、野生鳥獣による農作物被害額は、近年、200億円前後で推移しており、特に、シカ、イノシシによる被害の増加が顕著となっている。

**オ 経営体用の飼料作物の収穫量調査における各種変更**

経営体用の飼料作物の収穫量調査（様式18）について、以下のとおり変更することとしている。

- （ア）「【2】牧草について」において、これまで調査する面積を「栽培面積」と記載していたところ、「作付（栽培）面積」に表記を変更
- （イ）「【2】牧草について」において、収穫量を記入する部分に「<固定サイロ（注1）を用いている場合>」の記入欄を追加
- （ウ）「【3】青刈りとうもろこしについて」及び「【4】ソルゴーについて」において、これまで調査する面積を「栽培面積」と記載していたところ、「作付面積」に表記を変更
- （エ）「【3】青刈りとうもろこしについて」及び「【4】ソルゴーについて」において、収穫量を記入する部分に「<ラッピング（注2）を行っている場合>」の記入欄を追加

（注1）塔型サイロ（タワーサイロ）、バンカーサイロなど、サイレージ（飼料作物に付着する乳酸菌の作用により飼料を嫌気的条件下で発酵させることで、pHを下げカビ等による腐敗を防ぎ、長期間の保存を可能にした飼料）を作成・貯蔵するために作られた四方を構築物で固められた施設。



(注2) 飼料作物（主に牧草）を刈り取った後（乾草の場合は天日乾燥後）、ロールペーラーによって外形50～120cm程度の円柱状に成型（梱包）したものに、ラッピングマシンによって、僅かに粘着性のあるラップフィルムを何層かに渡って巻きつけ、飼料の運搬性、保存性を高めたもの。なお、サイレージにする場合は、乾燥させない状態でラッピングする。

### （審査状況）

経営体用の飼料作物の収穫量調査（新様式18）について、上記（ア）～（エ）のとおり、変更することとしている（変更の詳細は、別添5〔37～38ページ〕参照）。

#### 1（ア）及び（ウ）について

これまで牧草、青刈りとうもろこし及びソルゴーの作付面積については、調査票上では「栽培面積」と記載してきたものの、複数年にわたって収穫できる永年性作物については「栽培面積」、おおむね1年以内に収穫され複数年に渡って収穫できない非永年性作物は「作付面積」として区分しているところであり、今回の変更において項目名を正確な表記に変更することとしているものである。

#### 2（イ）について

牧草については、従前の調査票では、収穫量（生重量）のほか、ラッピング又は梱包を行っている場合及び簡易サイロ<sup>（注3）</sup>を用いている場合の記入欄のみを設けていた。しかし、過去の回答において、固定サイロを用いているケースがあったことから、報告者が記入しやすいよう「固定サイロを用いている場合」の記入欄を追加するものである。

#### 3（エ）について

青刈りとうもろこし及びソルゴーについては、サイロを用いてサイレージとすることが一般的であるため、従前の調査票では、収穫量（生重量）のほか、収穫量が生重量で分からない場合、固定サイロ及び簡易サイロを用いている場合の記入欄のみを設けていた。しかし、収穫機械の開発等によって、これらの作物においてもラッピングを用いているケースがあったことから、報告者が記入しやすいよう「ラッピングを行っている場合」の記入欄を追加するものである。

これらについては、これまでの項目名を正確なものに修正するものであること、あるいは、報告者が調査票の記入をしやすいよう、記載欄を追加するものであることから、適当であると考ええる。

（注3） スタックサイロ、バキュームサイロ、バッグサイロ、L字型バンカーサイロなど、サイレージを作成・貯蔵するために土を掘り取るなどして作られた簡易な施設である。

## （6）集計事項の変更

集計事項について、調査票の新設及び調査事項の追加、削除等に伴う所要の変更を行う。

### （審査状況）

そば及びなたねの調査対象作物への追加に伴う調査票の新設並びに既存の調査票における調査事項の追加・削除等を行うことに伴い、調査結果として作成される集計事項の変更を行うこととしている。

変更される集計事項については、政策課題を検討するために有用な情報を提供するとともに、広く統計利用者のニーズにも応えようとするものであることから、おおむね適当であると考えられるが、具体的にどのような集計表が作成され、どのような分析が可能になるのか、表章区分等は適当か等について、統計の有用性の向上等の観点から検討する必要がある。

(論点)

- 1 調査票の新設及び調査事項の追加・削除等に伴い、変更することとしている集計表の表章(様式)はどのようなものか。
- 2 集計事項については、調査結果の利活用、その他統計ニーズ等の観点からみて、十分かつ適当なものとなっているか。

3 「諮問第315号の答申 作物統計調査の改正について」(平成19年2月9日付け統審議第1号)における「今後の課題」への対応状況について

〔「今後の課題」での記述〕

(1) 標本経営体に係る標本設計の検討

今回の調査計画(平成19年度から適用される本調査の調査計画)における標本経営体の標本設計については、単収等の誤差情報に係るデータが十分そろっていない段階での設計であるが、実査を通じて、関係団体及び標本経営体から得られた作付面積、自家消費費用及び贈答用を含めた収穫量、単収等に係るデータの検証を行い、必要なデータを得て、できるだけ早期に、分布状況、標準誤差、目標精度等を踏まえたより適切な標本設計、標本配置等に向けた検討を行うことが必要である。

(2) 調査に係る誤差情報の提供

今回の調査計画(平成19年度から適用される本調査の調査計画)は、標本設計、調査事項、調査方法等の大幅な変更を行った上で実施するものであり、統計利用者の利便性の確保を図る観点から、「統計行政の新たな展開方向」(平成15年6月27日各府省統計主管部局長等会議申合せ)<sup>(注)</sup>の趣旨に即して、調査に係る誤差情報(抽出方法・抽出率、回収率、集計・推定方法、達成誤差等)の提供に努めることが必要である。

(注) 社会・経済情勢の変化に対応した統計の整備、統計調査の効率的・円滑な実施、統計データの利用の拡大、国際協力の推進といった統計行政全般にわたって、各府省に共通する統計行政上の諸課題を取り上げ、今後5年から10年を見込んだ具体的方策を提示したものである。しかしながら、統計法に基づき「公的統計の整備に関する基本的な計画」(平成21年3月13日閣議決定)を策定したことに伴い、平成21年3月末をもって廃止とした。

(審査状況)

(1) 標本経営体に係る標本設計の検討について

前記2(3)アにおいて審議

(2) 調査に係る誤差情報の提供について

調査に係る誤差情報(抽出方法・抽出率、回収率、集計・推定方法、達成誤差等)については、従来から提供していた対地標本実測調査及び水稲作況調査の誤差情報(標本数及び標準誤差率)に加え、平成20年度調査結果からは、農林水産省ホームページ及び本調査の調査結果報告書において、関係団体及び標本経営体に対する各作物別の調査に係る誤差情報(母集団数、標本数、抽出率、有効回収数、有効回収率等)について提供している(別添6[39~42ページ]参照)ことから、適当であると考えられる。

## ●第Ⅱ期基本計画の記述に基づき、次の2つの視点から確認を行う。

## (1) 公的統計の品質評価の要素

基幹統計における品質評価の要素に沿った見直し状況については、「公的統計の品質保証に関するガイドライン」(平成 22 年 3 月 31 日各府省統計主管課長等会議申合せ、23 年 4 月 8 日改定)を参考に確認

「公的統計の品質保証に関するガイドライン」 別紙 3 公的統計の品質評価事項 (左列が主要要素、右列が補足的要素)

## ニーズ適合性

- ・統計作成の必要性はあるか
- ・利用者のニーズを把握するための措置を講じているか
- ・把握したニーズを適切に反映しているか
- ・調査事項、調査周期等の設定に合理性はあるか
- ・社会経済情勢の変化等に応じた見直しを行っているか

## 正確性

- ・統計調査の設計は、統計理論等に基づき、適切か
- ・統計調査の実施が、正確かつ適切に行われているか
- ・使用している統計基準や用語の定義は適切か
- ・調査系統の設定は適切か

## 適時性

- ・公表予定期日は統計の目的に照らして適切か
- ・公表予定期日等ができる限り早期に公表されているか
- ・公表が公表予定期日より遅れている場合、その遅れはやむを得ないものか

## 解釈可能性・明確性

- ・対象母集団、標本設計（抽出方法、抽出率、目標精度）、結果数値の推計方法、調査事項、調査の実施方法等の説明が行われているか
- ・使用している統計基準が、統計法に基づく統計基準や国際的な基準等と異なる場合、その違いの説明が行われているか
- ・作成した統計について、メタデータ、統計利用上の留意点等の説明が行われているか
- ・作成した統計表から明らかになる事項、又は利活用例を示し、利用可能性を周知しているか

## 信頼性

- ・標本設計（抽出方法、抽出率、目標精度）、結果数値の推計方法、調査の実施方法を公表しているか
- ・統計作成の方法や情報源等の重要な変更を行う場合、検討過程を公表しているか
- ・公表期日前に統計データを知り得る者、秘密保護のために講じている措置の内容を公表しているか
- ・調査実施時及び集計時の秘密保護措置は適切か
- ・調査票情報の管理は適切に行われているか
- ・統計の中立性は確保されているか

## 整合性・比較可能性

- ・使用している統計基準が、統計法に基づく統計基準や国際的な基準等と異なる場合、その違いは妥当か
- ・統計の方法や情報源等の変更を行う場合、変更内容は妥当か
- ・過去の結果との断層がある場合は、その理由が妥当か

## アクセス可能性

- ・公表時期と利用者への周知時期（e-Stat 等への掲載時期）にタイムラグがないか
- ・アクセス可能な情報の一覧が公開されているか
- ・利用者の照会窓口を設置しているか
- ・二次的利用の推進を図っているか

## 効率性

- ・同じ情報を得るために効率性を十分に検討した上で、より適切な方法により統計を作成しているか
- ・他の調査票情報や行政記録情報の活用を図っているか
- ・被調査者の負担に配慮しているか

## (2) 基幹統計の法定要件

基幹統計としての重要性及び必要性の充足状況については、統計法の要件を確認

- (1) 統計法第 2 条第 4 項第 3 号の 3 要件を確認
- (2) 基幹統計（基幹統計調査）には、他の公的統計に比べ、より高い正確性や利便性を確保するために、公表義務、報告義務、調査、報告その他の協力を求める権限の付与など、一定の規律が定められているが、これらの規律を課すにふさわしいかを確認
- (3) 特に、統計法施行時にはこれらの要件を満たしていたものの、その後の社会経済情勢の変化を踏まえてなおかつ満たしているか、改めて確認



平成 29 年度作物統計調査 関係団体用調査票の統合について

<陸稲>

平成 29 年度調査 (案)					平成 28 年度調査 (現行)																																																				
様式第 4 号 (団体用作付面積調査・収穫量調査調査票) 陸稲					様式第 5 号 (団体用作付面積調査調査票) かんしょ、陸稲、飼肥料作物																																																				
<p><b>【 1 】 貴団体が集荷している作付面積及び集荷量について</b></p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>記入上の注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作付面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。0.05ha未満の場合は「0.0」と記入してください。</li> <li>○ 集荷量は単位を「t」とし、整数で記入してください。</li> <li>○ <b>陸稲品種を田に作付けしたものは除きます。</b> 水稻品種を畑に作付けしたものは陸稲に含めますが、<b>計画的にかんがいをやり栽培するものは除きます。</b></li> </ul> </div> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">作物名</th> <th colspan="2">作付面積</th> <th colspan="2">集荷量</th> <th rowspan="2">うち検査基準以上</th> </tr> <tr> <th>前年産</th> <th>ha</th> <th>t</th> <th>t</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">陸稲</td> <td>前年産</td> <td style="background-color: #ffe0b2;">ha</td> <td style="background-color: #ffe0b2;">t</td> <td style="background-color: #ffe0b2;">t</td> <td></td> </tr> <tr> <td>本年産</td> <td style="background-color: #ffe0b2;">:</td><td style="background-color: #ffe0b2;">:</td><td style="background-color: #ffe0b2;">:</td><td style="background-color: #ffe0b2;">:</td></tr> </tbody> </table>					作物名	作付面積		集荷量		うち検査基準以上	前年産	ha	t	t	陸稲	前年産	ha	t	t		本年産	:	:	:	:	<p>貴団体内の作付状況について、以下の作物ごとに記入してください。</p> <p><b>1 かんしょの作付面積</b> <span style="float: right;"><b>単位 : ha</b></span></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">作物名</th> <th rowspan="2">前年産</th> <th colspan="2">作付面積 (田畑計)</th> </tr> <tr> <th>田</th> <th>畑</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">かんしょ</td> <td>前年産</td> <td style="background-color: #fff9c4;">:</td><td style="background-color: #fff9c4;">:</td></tr> <tr> <td>本年産</td> <td style="background-color: #fff9c4;">:</td><td style="background-color: #fff9c4;">:</td></tr> </tbody> </table> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>2 陸稲の作付面積</b> <span style="float: right;"><b>単位 : ha</b></span></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">作物名</th> <th rowspan="2">前年産</th> <th colspan="2">作付面積 (田畑計)</th> </tr> <tr> <th>田</th> <th>畑</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">陸稲</td> <td>前年産</td> <td style="background-color: #fff9c4;">:</td><td style="background-color: #fff9c4;">:</td></tr> <tr> <td>本年産</td> <td style="background-color: #fff9c4;">:</td><td style="background-color: #fff9c4;">:</td></tr> </tbody> </table> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; font-size: x-small;"> <p>※ 作付面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。</p> <p>※ 陸稲については、陸稲品種を田に作付けしたものは除きます。</p> <p>水稻品種を畑に作付けしたものは陸稲に含めますが、スプリンクラー等により計画的なかんがいをを行う栽培のものは除きます。</p> </div>					作物名	前年産	作付面積 (田畑計)		田	畑	かんしょ	前年産	:	:	本年産	:	:	作物名	前年産	作付面積 (田畑計)		田	畑	陸稲	前年産	:	:	本年産	:	:	
作物名	作付面積		集荷量			うち検査基準以上																																																			
	前年産	ha	t	t																																																					
陸稲	前年産	ha	t	t																																																					
	本年産	:	:	:	:																																																				
作物名	前年産	作付面積 (田畑計)																																																							
		田	畑																																																						
かんしょ	前年産	:	:																																																						
	本年産	:	:																																																						
作物名	前年産	作付面積 (田畑計)																																																							
		田	畑																																																						
陸稲	前年産	:	:																																																						
	本年産	:	:																																																						
様式第 7 号 (団体用収穫量調査調査票) 陸稲、麦類、大豆、かんしょ、飼料作物					様式第 7 号 (団体用収穫量調査調査票) 陸稲、麦類、大豆、かんしょ、飼料作物																																																				
<p><b>【 1 】 作付面積及び集荷量について</b></p> <p>本年産の作付面積及び集荷量について、以下の作物ごとに記入してください。</p>					<p>本年産の作付面積及び集荷量について、以下の作物ごとに記入してください。</p>																																																				
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">作物名</th> <th rowspan="2">年産</th> <th colspan="2">作付面積</th> <th colspan="2">集荷量</th> <th rowspan="2">うち、検査基準以上</th> </tr> <tr> <th>ha</th> <th>t</th> <th>t</th> <th>t</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>前年産</td> <td style="background-color: #fff9c4;">ha</td> <td style="background-color: #fff9c4;">t</td> <td style="background-color: #fff9c4;">t</td> <td style="background-color: #fff9c4;">t</td> <td></td> </tr> <tr> <td>本年産</td> <td style="background-color: #fff9c4;">:</td><td style="background-color: #fff9c4;">:</td><td style="background-color: #fff9c4;">:</td><td style="background-color: #fff9c4;">:</td><td style="background-color: #fff9c4;">:</td></tr> </tbody> </table>					作物名	年産	作付面積		集荷量		うち、検査基準以上	ha	t	t	t		前年産	ha	t	t	t		本年産	:	:	:	:	:	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">作物名</th> <th rowspan="2">年産</th> <th colspan="2">作付面積</th> <th colspan="2">集荷量</th> <th rowspan="2">うち、検査基準以上</th> </tr> <tr> <th>ha</th> <th>t</th> <th>t</th> <th>t</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>前年産</td> <td style="background-color: #fff9c4;">:</td><td style="background-color: #fff9c4;">:</td><td style="background-color: #fff9c4;">:</td><td style="background-color: #fff9c4;">:</td><td style="background-color: #fff9c4;">:</td></tr> <tr> <td>本年産</td> <td style="background-color: #fff9c4;">:</td><td style="background-color: #fff9c4;">:</td><td style="background-color: #fff9c4;">:</td><td style="background-color: #fff9c4;">:</td><td style="background-color: #fff9c4;">:</td></tr> </tbody> </table>					作物名	年産	作付面積		集荷量		うち、検査基準以上	ha	t	t	t		前年産	:	:	:	:	:	本年産	:	:	:	:	:
作物名	年産	作付面積		集荷量			うち、検査基準以上																																																		
		ha	t	t	t																																																				
	前年産	ha	t	t	t																																																				
	本年産	:	:	:	:	:																																																			
作物名	年産	作付面積		集荷量		うち、検査基準以上																																																			
		ha	t	t	t																																																				
	前年産	:	:	:	:	:																																																			
	本年産	:	:	:	:	:																																																			
<p>注 : 1 作付面積は単位を「ha」とし、小数第一位 (10a単位) まで記入してください。</p> <p>2 「うち、検査基準以上」欄には、陸稲は3等以上のものを、麦類は1等、2等に加え規格外のうち規格外れたものの合計を、大豆は「特定加工用」以上のものを記入してください。</p> <p>なお、かんしょについては記入の必要はありません。</p> <p>3 検査を受けないものや、提出日までに検査を受けていない場合は集荷された農作物の状態から検査基準となる量を見積もって記入してください。</p>					<p>注 : 1 作付面積は単位を「ha」とし、小数第一位 (10a単位) まで記入してください。</p> <p>2 「うち、検査基準以上」欄には、陸稲は3等以上のものを、麦類は1等、2等に加え規格外のうち規格外れたものの合計を、大豆は「特定加工用」以上のものを記入してください。</p> <p>なお、かんしょについては記入の必要はありません。</p> <p>3 検査を受けないものや、提出日までに検査を受けていない場合は集荷された農作物の状態から検査基準となる量を見積もって記入してください。</p>																																																				

<麦類>

平成 29 年度調査（案）

様式第 5 号（団体用作付面積調査・収穫量調査調査票） 麦類

【 1 】 貴団体で集荷している作付面積及び集荷量について

記入上の注意

- 作付面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。0.05ha未満の場合は「0.0」と記入してください。
- 集荷量は単位を「t」とし、整数で記入してください。0.5t未満の結果は「0」と記入してください。
- **主に食用(子実用)とするものについて記入してください。緑肥用や飼料用は含めないでください。**
- 「うち検査基準以上」欄には、1等、2等に加え規格外のうち規格外Aとされたものの合計を記入してください。
- 検査を受けない場合や、提出日までに検査を受けていない場合などは、集荷された農作物の状態から検査基準以上となる量を見積もって記入してください。

品目名	作付面積 (田畑計)	田		畑		集荷量	
		ha	ha	ha	ha	t	うち検査基準以上
小麦	前年産	ha	ha	ha	ha	t	t
	本年産						
秋まき (北海道のみ)	前年産	ha				t	t
	本年産						
春まき (北海道のみ)	前年産	ha				t	t
	本年産						
二条大麦	前年産	ha	ha	ha	ha	t	t
	本年産						
六条大麦	前年産	ha	ha	ha	ha	t	t
	本年産						
はだか麦	前年産	ha	ha	ha	ha	t	t
	本年産						

平成 28 年度調査（現行）

様式第 2 号（団体用作付面積調査調査票） 麦類

貴団体内の作付状況について、以下の作物ごとに記入してください。

1 麦類の作付面積

単位：ha

作物名	作付面積 (田畑計)	田		畑		子実用		青刈り用		飼料用	
		ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
小麦	前年産										
	本年産										
秋まき (北海道のみ)	前年産										
	本年産										
春まき (北海道のみ)	前年産										
	本年産										
二条大麦	前年産										
	本年産										
六条大麦	前年産										
	本年産										
はだか麦	前年産										
	本年産										
えん麦	前年産										
	本年産										
らい麦	前年産										
	本年産										

- ※ 作付面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。
- ※ 青刈り用には飼料用のほかに**肥料用**が含まれます。なお、作物等の被覆用として作付けされるものについては、青刈り用を含めずに田・畑欄に含めて記入してください。

引き続き次のページへお進みください。

様式第 7 号（団体用収穫量調査調査票） 陸稲、麦類、大豆、かんしょ、飼料作物

【 1 】 作付面積及び集荷量について

本年産の作付面積及び集荷量について、以下の作物ごとに記入してください。

作物名	年産	作付面積		集荷量		うち、検査基準以上
		ha	ha	t	t	
小麦	前年産	ha		t	t	
	本年産					
二条大麦	前年産					
	本年産					
六条大麦	前年産					
	本年産					
はだか麦	前年産					
	本年産					

- 注：1 作付面積は単位を「ha」とし、小数第一位(10a単位)まで記入してください。
- 2 「うち、検査基準以上」欄には、陸稲は3等以上のものを、麦類は1等、2等に加え規格外のうち規格外Aとされたものの合計を、大豆は「特定加工用」以上のものを記入してください。  
なお、かんしょについては記入の必要はありません。
- 3 検査を受けないものや、提出日までに検査を受けていない場合は集荷された農作物の状態から検査基準以上となる量を見積もって記入してください。

<かんしょ、飼料作物>

平成 29 年度調査（案）

様式第 6 号（団体用作付面積調査・収穫量調査調査票） 飼料作物、かんしょ、そば、なたね

【 1 】 貴団体内の作付(栽培)面積及び集荷量について

記入上の注意

- 作付(栽培)面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。0.05ha未満の場合は「0.0」と記入してください。
- 集荷量は単位を「t」とし、整数で記入してください。0.5t未満の結果は「0」と記入してください。
- <作物ごとの注意事項>

品目名	作付(栽培)面積 (田畑計)	田	畑	集荷量	うち検査基準以上
	前年産	ha	ha	ha	t
	本年産				
	前年産	ha	ha	ha	t
	本年産				
	前年産	ha	ha	ha	t
	本年産				
	前年産	ha	ha	ha	t
	本年産				

平成 28 年度調査（現行）

様式第 5 号（団体用作付面積調査調査票） かんしょ、陸稲、飼肥料作物

貴団体内の作付状況について、以下の作物ごとに記入してください。

1 かんしょの作付面積 **単位：ha**

作物名	作付面積 (田畑計)	田		畑	
		前年産	本年産	前年産	本年産
かんしょ	前年産				
	本年産				

2 陸稲の作付面積 **単位：ha**

作物名	作付面積 (田畑計)	田		畑	
		前年産	本年産	前年産	本年産
陸稲	前年産				
	本年産				

※ 作付面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。  
 ※ 陸稲については、陸稲品種を畑に作付けしたものは除きます。  
 ※ 水稲品種を畑に作付けしたものは陸稲に含まれますが、スプリングラー等により計画的なかんがいをを行う栽培のものは除きます。

4 飼肥料作物の作付(栽培)面積 **単位：ha**

作物名	作付(栽培)面積 (田畑計)	田		畑	
		飼料用	肥料用	飼料用	肥料用
牧草	前年産				
	本年産				
青刈りとうもろこし	前年産				
	本年産				
刈りソルゴー	前年産				
	本年産				
その他	前年産				
	本年産				
青刈り稲	前年産				
	本年産				
れんげ	前年産				
	本年産				
その他飼肥料作物	前年産				
	本年産				

※ 作付(栽培)面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。  
 ※ 青刈り作物のその他には、青刈り大豆等の飼料用や肥料用が含まれますが、青刈り麦類(小麦、二条大麦、六条大麦、はだか麦、えん麦、らい麦)については除いてください。  
 ※ なお、青刈り稲については、飼料用として作付けしたものについて記入してください。しめ縄等の加工用や肥料用として作付けしたものは除きます。  
 ※ その他飼肥料作物には、飼料用かぶ、クロタラリア等が含まれます。

【1】 作付面積及び集荷量について

本年産の作付面積及び集荷量について、以下の作物ごとに記入してください。

作物名	年産	作付面積	集荷量	
			うち、検査基準以上	
	前年産	ha	t	t
	本年産	: : : : : :	: : : : : :	: : : : : :
	前年産			
	本年産	: : : : : :	: : : : : :	: : : : : :
	前年産			
	本年産	: : : : : :	: : : : : :	: : : : : :
	前年産			
	本年産	: : : : : :	: : : : : :	: : : : : :

- 注：1 作付面積は単位を「ha」とし、小数第一位（10a単位）まで記入してください。  
 2 「うち、検査基準以上」欄には、陸稲は3等以上のものを、麦類は1等、2等に加え規格外のうち規格外れたものの合計を、大豆は「特定加工用」以上のものを記入してください。  
 なお、かんしょについては記入の必要はありません。  
 3 検査を受けないものや、提出日までに検査を受けていない場合は集荷された農作物の状態から検査基準となる量を見積もって記入してください。



平成 29 年度作物統計調査 野菜調査に係る関係団体用調査票の変更について

平成 29 年度調査 (案)										平成 28 年度調査 (案)									
様式第 11 号 (野菜指定産地用調査票)										様式第 16 号 (団体用作付面積調査・収穫量調査調査票) 野菜									
<b>【1】 貴団体が集荷している市町村別の作付面積及び出荷量について</b>										<b>【1】 作付面積及び出荷量について</b> 本年産の作付面積及び出荷量について、以下の品目ごとに記入してください。									
<b>記入上の注意</b> ○ その品目の <b>指定産地が存在する市町村</b> について、 <b>指定産地の内外にかかわらず</b> 記入してください。 ○ 「作付面積」は、は種又は植付けし、発芽又は定着した作物の利用面積を記入してください。単位は「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。0.05ha未満の場合は「0.0」と記入してください。 ○ 「作付面積」及び「出荷量」には、 <b>種子用や飼料用は含めません</b> 。																			
品目名	主たる収穫・出荷期間	指定産地名	市町村名	作付面積 ha	出荷量 t	前年値				品目名	主たる収穫・出荷期間	区分	作付面積	出荷量	うち、加工向け	うち、業務用向け			
						前年産	ha	t	t			前年産	ha	t	t	t			
						本年産						本年産							
						前年産						前年産							
						本年産						本年産							
						前年産						前年産							
						本年産						本年産							
						前年産						前年産							
						本年産						本年産							
						前年産						前年産							
						本年産						本年産							



平成 29 年度作物統計調査 収穫量の増減要因及び主な被害の要因の変更について

【収穫量の増減要因の変更】

<陸稲>

平成 29 年度調査（案）										平成 28 年度調査（現行）																																																											
様式第 4 号（団体用作付面積調査・収穫量調査調査票） 陸稲										様式第 7 号（団体用収穫量調査調査票） 陸稲、麦類、大豆、かんしょ、飼料作物																																																											
<p>【 3 】 収穫量の増減要因等について                      前年産に比べて本年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の要因について記入してください。                      （該当のある場合は、点線を鉛筆などでなぞってください。）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 15%;">作物名</th> <th colspan="3">作柄の良否</th> <th colspan="3">被害の多少</th> <th colspan="10">主な被害の要因(複数回答可)</th> </tr> <tr> <th>良</th> <th>並</th> <th>悪</th> <th>少</th> <th>並</th> <th>多</th> <th>高温</th> <th>低温</th> <th>日照不足</th> <th>多雨</th> <th>少雨</th> <th>台風</th> <th>病害</th> <th>虫害</th> <th>鳥獣害</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>陸稲</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> </tbody> </table>										作物名	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因(複数回答可)										良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他	陸稲	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	<p>【2】 生育、作柄及び被害の状況について                      生育、作柄及び被害の発生状況等について、記入してください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>									
作物名	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因(複数回答可)																																																														
	良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他																																																					
陸稲	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/																																																					
<p>作物ごとに被害以外の増減要因（品種、栽培方法などの変化）があれば、記入してください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>																																																																					

<麦類>

平成 29 年度調査（案）							平成 28 年度調査（現行）																																																																																																																												
様式第 5 号（団体用作付面積調査・収穫量調査調査票） 麦類							様式第 7 号（団体用収穫量調査調査票） 陸稲、麦類、大豆、かんしょ、飼料作物																																																																																																																												
<p>【 3 】 収穫量の増減要因等について 前年産に比べて本年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の要因について記入してください。 （該当のある場合は、点線を鉛筆などでなぞってください。）</p>							<p>【 2 】 生育、作柄及び被害の状況について 生育、作柄及び被害の発生状況等について、記入してください。</p>																																																																																																																												
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 15%;">作物名</th> <th colspan="3" style="text-align: center;">作柄の良否</th> <th colspan="3" style="text-align: center;">被害の多少</th> <th colspan="10" style="text-align: center;">主な被害の要因(複数回答可)</th> </tr> <tr> <th style="width: 5%;">良</th> <th style="width: 5%;">並</th> <th style="width: 5%;">悪</th> <th style="width: 5%;">少</th> <th style="width: 5%;">並</th> <th style="width: 5%;">多</th> <th style="width: 5%;">高温</th> <th style="width: 5%;">低温</th> <th style="width: 5%;">日照不足</th> <th style="width: 5%;">多雨</th> <th style="width: 5%;">少雨</th> <th style="width: 5%;">台風</th> <th style="width: 5%;">病害</th> <th style="width: 5%;">虫害</th> <th style="width: 5%;">鳥獣害</th> <th style="width: 5%;">その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小麦</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td> </tr> <tr> <td>二条大麦</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td> </tr> <tr> <td>六条大麦</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td> </tr> <tr> <td>はだか麦</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td><td>/</td> <td>/</td><td>/</td> </tr> </tbody> </table>							作物名	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因(複数回答可)										良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他	小麦	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	二条大麦	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	六条大麦	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	はだか麦	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	<table border="1" style="width:100%; height: 100px;"> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table>																			
作物名	作柄の良否			被害の多少				主な被害の要因(複数回答可)																																																																																																																											
	良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他																																																																																																																			
小麦	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/																																																																																																																		
二条大麦	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/																																																																																																																		
六条大麦	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/																																																																																																																		
はだか麦	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/																																																																																																																		
<p>作物ごとに被害以外の増減要因（品種、栽培方法などの変化）があれば、記入してください。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>																																																																																																																																			

<飼料作物、かんしょ、そば、なたね>

平成 29 年度調査 (案)

様式第 6 号 (団体用作付面積調査・収穫量調査調査票) 飼料作物、かんしょ、そば、なたね

【 3 】 収穫量の増減要因等について

前年産に比べて本年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の要因について記入してください。  
(該当のある場合は、点線を鉛筆などでなぞってください。)

作物名	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因(複数回答可)										
	良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他	
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

作物ごとに被害以外の増減要因 (品種、栽培方法などの変化) があれば、記入してください。

.....

.....

.....

.....

.....

平成 28 年度調査 (現行)

様式第 7 号 (団体用収穫量調査調査票) 陸稲、麦類、大豆、かんしょ、飼料作物

【 2 】 生育、作柄及び被害の状況について

生育、作柄及び被害の発生状況等について、記入してください。

.....

.....

.....

.....

<春植えばれいしょ>

平成 29 年度調査（案）	平成 28 年度調査（現行）																																																																
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     様式第 9 号（団体用作付面積調査・収穫量調査調査票） 春植えばれいしょ                 </div> <p><b>【3】 収穫量の増減要因等について</b>                      前年産に比べて本年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の要因について記入してください。                      （該当のある場合は、点線を鉛筆などでなぞってください。）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 15%;">作物名</th> <th colspan="3">作柄の良否</th> <th colspan="3">被害の多少</th> <th colspan="8">主な被害の要因(複数回答可)</th> </tr> <tr> <th>良</th> <th>並</th> <th>悪</th> <th>少</th> <th>並</th> <th>多</th> <th>高温</th> <th>低温</th> <th>日照不足</th> <th>多雨</th> <th>少雨</th> <th>台風</th> <th>病害</th> <th>虫害</th> <th>鳥獣害</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr style="border: 2px solid magenta;"> <td style="border: 1px solid black;">春植えばれいしょ</td> <td style="border: 1px solid magenta;">/</td> <td style="border: 1px solid magenta;">/</td> <td style="border: 1px solid magenta;">/</td> <td style="border: 1px solid magenta;">/</td> <td style="border: 1px solid magenta;">/</td> <td style="border: 1px solid magenta;">/</td> <td style="border: 1px solid magenta;">/</td> <td style="border: 1px solid magenta;">/</td> <td style="border: 1px solid magenta;">/</td> <td style="border: 1px solid magenta;">/</td> <td style="border: 1px solid magenta;">/</td> <td style="border: 1px solid magenta;">/</td> <td style="border: 1px solid magenta;">/</td> <td style="border: 1px solid magenta;">/</td> <td style="border: 1px solid magenta;">/</td> <td style="border: 1px solid magenta;">/</td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     作物ごとに被害以外の増減要因（品種、栽培方法などの変化）があれば、記入してください。                 </div>	作物名	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因(複数回答可)								良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他	春植えばれいしょ	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     様式第 15 号（団体用作付面積調査・収穫量調査調査票） 春植えばれいしょ                 </div> <p><b>【2】 面積、生育、作柄及び被害の状況について</b>                      作付面積の増減理由、生育、作柄及び被害の発生状況等について、記入してください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;">                     作付面積の主な増減理由：                 </td> <td style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;">                     生育、作柄及び被害状況：                 </td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> </tr> </table>	作付面積の主な増減理由：	生育、作柄及び被害状況：														
作物名		作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因(複数回答可)																																																									
	良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他																																																	
春植えばれいしょ	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/																																																	
作付面積の主な増減理由：	生育、作柄及び被害状況：																																																																

<大豆（収穫量）>

平成 29 年度調査（案）

様式第 14 号（団体用収穫量調査調査票） 大豆

【2】収穫量の増減要因等について

本年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の要因について記入してください。  
 （該当のある場合は、点線を鉛筆などでなぞってください。）

作物名	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因（複数回答可）									
	良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

作物ごとに被害以外の増減要因（品種、栽培方法などの変化）があれば、記入してください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

平成 28 年度調査（現行）

様式第 7 号（団体用収穫量調査調査票） 陸稲、麦類、大豆、かんしょ、飼料作物

【2】 生育、作柄及び被害の状況について

生育、作柄及び被害の発生状況等について、記入してください。

.....

.....

.....

.....

<果樹（収穫量）>

平成 29 年度調査（案）										平成 28 年度調査（現行）																																																																									
様式第 16 号（団体用収穫量調査調査票） 果樹										様式第 13 号（団体用収穫量調査調査票） 果樹																																																																									
<p><b>【3】 収穫量の増減要因等について</b>                      前年産に比べて本年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の要因について記入してください。                      （該当のある場合は、点線を鉛筆などでなぞってください。）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 15%;">品目</th> <th colspan="3">作柄の良否</th> <th colspan="3">被害の多少</th> <th colspan="10">主な被害の要因（複数回答可）</th> </tr> <tr> <th>良</th> <th>並</th> <th>悪</th> <th>少</th> <th>並</th> <th>多</th> <th>高温</th> <th>低温</th> <th>日照不足</th> <th>多雨</th> <th>少雨</th> <th>台風</th> <th>病害</th> <th>虫害</th> <th>鳥獣害</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td>////</td> <td>////</td> <td>////</td> <td>////</td> <td>////</td> <td>////</td> <td>////</td> <td>////</td> <td>////</td> <td>////</td> <td>////</td> <td>////</td> <td>////</td> <td>////</td> <td>////</td> <td>////</td> </tr> </tbody> </table>										品目	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因（複数回答可）										良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他		////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	<p><b>【2】 結果樹面積、生育、作柄及び被害の状況について</b>                      結果樹面積の増減理由、生育、作柄及び被害の発生状況等について、記入してください。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">結果樹面積の増減理由：</th> <th style="width: 50%;">生育、作柄及び被害状況：</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td style="height: 20px;"> </td><td> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td><td> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td><td> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td><td> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td><td> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>										結果樹面積の増減理由：	生育、作柄及び被害状況：												
品目	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因（複数回答可）																																																																												
	良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他																																																																			
	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////																																																																			
結果樹面積の増減理由：	生育、作柄及び被害状況：																																																																																		
<p>被害以外の増減要因（品種、栽培方法などの変化）があれば、記入してください。</p> <hr/>																																																																																			



【主な被害の要因の変更】

<てんさい>

平成 29 年度調査（案）											平成 28 年度調査（現行）										
様式第 7 号（団体用作付面積調査・収穫量調査調査票） てんさい											様式第 11 号（団体用作付面積調査・収穫量調査調査票） てんさい										
作物名	主な被害の要因（複数回答可）										融雪が遅かった	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	鳥獣害	病害	虫害	その他
	融雪遅れ	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	鳥獣害	病害	虫害											
てんさい	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	

<さとうきび>

平成 29 年度調査（案）											平成 28 年度調査（現行）										
様式第 8 号（団体用作付面積調査・収穫量調査調査票） さとうきび											様式第 12 号（団体用作付面積調査・収穫量調査調査票） さとうきび										
作型	主な被害の要因（複数回答可）										被害の要因										
	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	鳥獣害	台風	病害	虫害	その他	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	その他			
夏植え	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1	2	3	4	5	6	7	8			
春植え	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1	2	3	4	5	6	7	8			
株出し	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1	2	3	4	5	6	7	8			

<陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ>

平成 29 年度調査 (案)										平成 28 年度調査 (現行)									
様式第 17 号 (経営体用収穫量調査調査票) 陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ										様式第 8 号 (経営体用収穫量調査調査票) 陸稲、麦類、大豆、かんしょ									
主な被害の要因(複数回答可)										被害の要因									
高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	その他	
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/										
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/										
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/										

<飼料作物>

平成 29 年度調査 (案)										平成 28 年度調査 (現行)									
様式第 18 号 (経営体用収穫量調査調査票) 飼料作物										様式第 9 号 (経営体用収穫量調査調査票) 飼料作物									
主な被害の要因(複数回答可)										被害の要因									
高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	その他	
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/										
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/										
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/										

<なたね>

平成 29 年度調査 (案)										平成 28 年度調査 (現行)									
様式第 19 号 (経営体用収穫量調査調査票) <u>なたね</u>										(新設)									
主な被害の要因(複数回答可)																			
高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他										
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/										

<果樹>

平成 29 年度調査 (案)										平成 28 年度調査 (現行)									
様式第 20 号 (経営体用収穫量調査調査票) <u>果樹</u>										様式第 14 号 (経営体用収穫量調査調査票) <u>果樹</u>									
主な被害の要因(複数回答可)										高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	その他	
高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他										
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/										

<春植えばれいしょ>

平成 29 年度調査 (案)										平成 28 年度調査 (現行)								
様式第 21 号 (経営体用収穫量調査調査票) 春植えばれいしょ										様式第 17 号 (経営体用収穫量調査調査票) 春植えばれいしょ								
主な被害の要因(複数回答可)																		
高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	その他
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/									

平成 29 年度作物統計調査 飼料作物の収穫量調査に係る経営体用調査票の変更について

平成 29 年度調査 (案)		平成 28 年度調査 (案)																																																						
様式第 18 号 (経営体用収穫量調査調査票 飼料作物)		様式第 9 号 (経営体用収穫量調査調査票 飼料作物)																																																						
(7) 「【2】牧草について」において、「作付(栽培)面積」に表記を変更																																																								
<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">作付(栽培)面積</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td colspan="2">(町)(反)(畝)</td> </tr> <tr> <td>ha</td> <td>a</td> </tr> </table>		作付(栽培)面積										(町)(反)(畝)		ha	a	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">栽培面積</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td colspan="2">ha a</td> </tr> <tr> <td>(町)</td> <td>(反)(畝)</td> </tr> </table>		栽培面積										ha a		(町)	(反)(畝)																									
作付(栽培)面積																														(町)(反)(畝)																										
		ha	a																																																					
栽培面積										ha a																																														
										(町)	(反)(畝)																																													
(イ) 「【2】牧草について」において、収穫量を記入する部分に「<固定サイロを用いている場合>」の記入欄を追加																																																								
<p>1 収穫量が重量(生重量)で分かる場合</p> <table border="1"> <tr> <td>収穫量計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>t</td> <td>kg</td> </tr> <tr> <td>1 番刈り</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>t</td> <td>kg</td> </tr> <tr> <td>2 番刈り</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>t</td> <td>kg</td> </tr> <tr> <td>3 番刈り</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>t</td> <td>kg</td> </tr> <tr> <td>4 番刈り</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>t</td> <td>kg</td> </tr> </table> <p>記入上の注意: 各期ごとの収穫量を記入の上、「収穫量計」の欄に合計を記入してください。(刈取り時期ごとに分からない場合は、「収穫量計」のみに記入してください。)</p>		収穫量計					t	kg	1 番刈り					t	kg	2 番刈り					t	kg	3 番刈り					t	kg	4 番刈り					t	kg	<p>2 生重量で分からない場合</p> <p>&lt;ラッピング又は梱包を行っている場合&gt;</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>個数(個)</td> <td>1個当たりのおおよその重量</td> </tr> <tr> <td>ラッピング個数</td> <td></td> <td>kg</td> </tr> <tr> <td>梱包個数</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>&lt;固定サイロを用いている場合&gt;</p> <table border="1"> <tr> <td>サイロの容積</td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td></td> <td>%</td> </tr> </table> <p>&lt;簡易サイロを用いている場合&gt;</p> <table border="1"> <tr> <td>サイロの容積</td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> </tr> </table>			個数(個)	1個当たりのおおよその重量	ラッピング個数		kg	梱包個数			サイロの容積		m <sup>3</sup>	充足率		%	サイロの容積		m <sup>3</sup>
収穫量計					t	kg																																																		
1 番刈り					t	kg																																																		
2 番刈り					t	kg																																																		
3 番刈り					t	kg																																																		
4 番刈り					t	kg																																																		
	個数(個)	1個当たりのおおよその重量																																																						
ラッピング個数		kg																																																						
梱包個数																																																								
サイロの容積		m <sup>3</sup>																																																						
充足率		%																																																						
サイロの容積		m <sup>3</sup>																																																						
		<p>ア 収穫量が重量(生重量)でわかる場合</p> <p>刈取り時期ごとの収穫量を記入の上、「計」欄に合計の収穫量を記入してください。(各期ごとにわからない場合は、「計」のみの記入でも結構です。)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>1 番刈り</td> <td>2 番刈り</td> <td>3 番刈り</td> <td>4 番刈り</td> </tr> <tr> <td>収穫量</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			計	1 番刈り	2 番刈り	3 番刈り	4 番刈り	収穫量																																														
	計	1 番刈り	2 番刈り	3 番刈り	4 番刈り																																																			
収穫量																																																								
		<p>イ ラッピング個数等がわかる場合</p> <p>記入上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ラッピングマシーンを用いている場合は「ラッピング個数」欄に、ラッピング個数及び1個当たりの重量を記入してください。</li> <li>乾燥後、梱包を行っている場合は、「梱包個数」欄に梱包個数及び1個当たりの重量を記入してください。</li> </ul> <p>&lt;ラッピング又は梱包を行っている場合&gt;</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>個数</td> <td>1個当たりのおおよその重量</td> </tr> <tr> <td>ラッピング個数</td> <td>個</td> <td>kg</td> </tr> <tr> <td>梱包個数</td> <td>個</td> <td>kg</td> </tr> </table> <p>&lt;簡易サイロを用いている場合&gt;</p> <table border="1"> <tr> <td>サイロの容積</td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> </tr> </table>			個数	1個当たりのおおよその重量	ラッピング個数	個	kg	梱包個数	個	kg	サイロの容積		m <sup>3</sup>																																									
	個数	1個当たりのおおよその重量																																																						
ラッピング個数	個	kg																																																						
梱包個数	個	kg																																																						
サイロの容積		m <sup>3</sup>																																																						

37

(ウ) 「【3】青刈りとうもろこしについて」及び「【4】ソルゴーについて」において、「作付面積」に表記を変更

作付面積					(町)(反)(畝) ha	a

(エ) 「【3】青刈りとうもろこしについて」及び「【4】ソルゴーについて」において、収穫量を記入する部分に「ラッピングを行っている場合」の記入欄を追加

1 収穫量が重量(生重量)で分かる場合	2 生重量で分からない場合																												
<table border="1"> <tr> <td>収穫量</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td>kg</td> </tr> </table>	収穫量				t		kg	<p style="text-align: center;">＜固定サイロを用いている場合＞</p> <table border="1"> <tr> <td>サイロの容積</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td></td> <td></td> <td>%</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">＜簡易サイロを用いている場合＞</p> <table border="1"> <tr> <td>サイロの容積</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">＜ラッピングを行っている場合＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>個数(個)</th> <th>1個当たりの おおよその重量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ラッピング個数</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	サイロの容積				m <sup>3</sup>	充足率			%		サイロの容積				m <sup>3</sup>		個数(個)	1個当たりの おおよその重量	ラッピング個数		
収穫量				t		kg																							
サイロの容積				m <sup>3</sup>																									
充足率			%																										
サイロの容積				m <sup>3</sup>																									
	個数(個)	1個当たりの おおよその重量																											
ラッピング個数																													

記入上の注意

○ 固定サイロとは、塔型サイロ(タワーサイロ)、バンカーサイロなど四方を構築物で固められたものをいいます。  
 なお、「充足率」は、固定サイロの容積に対する本年の利用割合を記入してください。

○ 簡易サイロとは、スタックサイロ、バキュームサイロ、バッグサイロなど固定式以外のものをいいます。  
 また、L字型バンカーサイロなど固定式でないものは簡易サイロに含めてください。  
 なお、簡易サイロを利用した場合は、使用した全てのサイロの容積の合計を記入してください。

栽培面積					ha	a
					(町)	(反)(畝)

収穫量
kg

2 1で収穫量(生重量)が不明な場合は、使用したサイロの容積を記入してください

記入上の注意

- 固定サイロとは、塔型サイロ(タワーサイロ)、バンカーサイロなど四方を構築物で固められたものをいいます。なお、「充足率」は、固定サイロの容積に対する本年の利用割合を記入してください。
- 簡易サイロとは、スタックサイロ、バキュームサイロ、バッグサイロなど固定式以外のものをいいます。また、L字型バンカーサイロなど固定式でないものは簡易サイロに含めてください。  
 なお、簡易サイロを利用した場合は、使用したすべてのサイロの容積の合計を記入してください。
- また、【4】のソルゴーも同様に記入してください。

＜固定サイロを用いている場合＞

サイロの容積	m <sup>3</sup>
充足率	%

＜簡易サイロを用いている場合＞

サイロの容積	m <sup>3</sup>
--------	----------------

## (9) 調査方法の概要

## ア 耕地面積調査及び水稲作付面積調査

## (ア) 耕地面積及び水稲作付面積

## a 母集団の編成

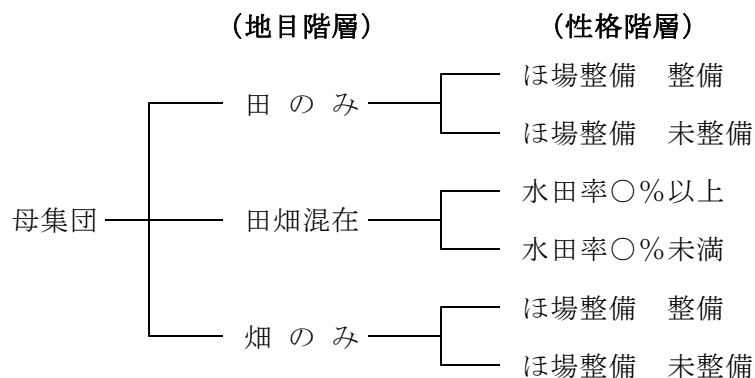
空中写真（衛星画像等）に基づき、全国の全ての土地を隙間なく200m四方（北海道にあっては、400m四方）の格子状に区分した上で、耕地が存在する区画を調査のための「単位区（けい畔で区切られた現況1枚ごとの筆の集まり）」とし、この単位区の集まりを母集団としている。

母集団は、ほ場整備、宅地への転用等により生じた現況の変化を反映するため、単位区の情報に補正することにより整備している。

## b 階層分け

調査精度の向上を図るため、母集団を各单位区内の耕地の地目に基づいて地目階層（「田のみ階層」、「田畑混在階層」及び「畑のみ階層」）に分類し、次にそれぞれの地目階層について、ほ場整備の状況、水田率等の指標で設定した性格階層に分類している。

## 階層分け模式図（例）



## c 標本配分及び抽出

都道府県別の田畑別耕地面積及び水稲作付面積が的確に把握できるよう階層ごとに標本数を配分し、系統抽出法により抽出する。

なお、各階層内の単位区は、bで示したように地目及び性格が類似したものであるため、抽出された標本は階層の代表性が高いものとなっている。

## d 実査（対地標本実測調査）

抽出した標本単位区内の全ての筆について、1筆ごとに現況地目及び耕地の境界並びに作付けの状況及びその範囲を確認する。

## e 推定

「標本単位区の台帳面積の合計」に対する「実査により得られた標本単位区の現況見積り面積の合計」の比率を「母集団（全単位区）の台帳面積の合計」に乘じ、これに台帳補正率（別途面積調査用の地理情報システムを使用して求積した結果に基づき算出した台帳面積に対する実面積の比率）を乗じることにより、全体の面積を推定している。

$$\text{推定面積} = \frac{\text{標本単位区の現況見積り面積合計}}{\text{標本単位区の台帳面積合計}} \times \text{全単位区の台帳面積合計} \times \text{台帳補正率}$$

なお、けい畔面積については、別途実測により測量したけい畔割合（率）を推定結果に乗じて算出している。

f その他

遠隔地、離島、市街地等の対地標本実測調査が非効率な地域については、職員による巡回・見積り、情報収集等によって把握している。

(イ) 耕地の拡張及びかい廃面積

職員による巡回・見積り、情報収集等によって把握している。

なお、耕地の拡張及びかい廃面積は、平成25年7月15日から平成26年7月14日までに生じたものである。

(ウ) 原子力災害対策特別措置法（平成11年法律第156号）により立入りが制限されている区域

福島県のうち原子力災害対策特別措置法により立入りが制限されている区域については、対地標本実測調査及び職員による巡回・見積りの実施が困難なことから、当該区域の平成23年耕地面積を計上している。

なお、関係機関からの情報収集によって把握できた面積は計上している。

イ 水稲以外の作物の作付（栽培）面積調査

関係団体に対する往復郵送調査によって把握し、これを職員による巡回・見積り及び情報収集により補完している。

(10) 対地標本実測調査における標本数及び調査結果（全国）の実績精度

標本単位区：39,369単位区

区 分	標準誤差率（%）
耕地面積（田）	0.18
耕地面積（畑）	0.36
水稲作付面積	0.36

注：標準誤差率（%）＝標準誤差の推定値÷推定値×100

(11) 調査対象数

区 分	関係団体等調査			巡回・ 見積り 市町村数
	対象数 ①	回収数 ②	回収率 ③=②/①	
陸 稲	団体 28	団体 28	% 100.0	市町村 1,720
麦 類	646	644	99.7	1,720
大 豆	640	635	99.2	1,720
小 豆	138	138	100.0	1,720
い ん げ ん	61	61	100.0	1,720
ら っ か せ い	20	20	100.0	1,720
そ ば	369	347	94.0	1,720
か ん し ょ	154	154	100.0	1,720
飼 肥 料 作 物	259	255	98.5	1,720
果 樹	618	609	98.5	1,720
茶	161	159	98.8	1,720



## 誤差情報提供の例（野菜収穫量調査） ※e-Statより抜粋

### (6) 調査対象の選定

調査の対象は、調査対象都道府県において調査対象品目の集出荷を行っている農協等及び野菜生産出荷安定法（昭和41年法律第103号）第10条第1項に規定する登録生産者の関係団体（関係団体調査）並びに標本経営体（標本経営体調査）としており、その選定については、以下のとおりとした。

#### ア 関係団体調査（全数調査）

調査対象となる全ての関係団体とした。

#### イ 標本経営体調査（標本調査）

2010年世界農林業センサスにおいて調査対象品目を販売目的で作付けした農林業経営体からなる母集団から無作為に抽出（母集団名簿を作付面積の昇順に並べ替え、標本数に応じて等間隔に抽出する方法（系統抽出法）により抽出）した。

### (7) 調査対象数

	関係団体調査			標本経営体調査				
	団体数 ①	有効回収数 ②	有効回収率 ③=②/①	母集団経営体数 ④	標本数 ⑤	抽出率 ⑥=⑤/④	有効回収数 ⑦	有効回収率 ⑧=⑦/⑤
	団体	団体	%	経営体	経営体	%	経営体	%
指定野菜のうち、春植えばれいしょ	716	663	92.6	91,683	5,132	5.6	2,609	50.8
指定野菜のうち、春野菜、夏秋野菜及びたまねぎ	1,526	1,450	95.0	1,142,195	13,668	1.2	5,517	40.4
指定野菜のうち、秋冬野菜及びほうれんそう並びに指定野菜に準ずる野菜	1,549	1,471	95.0	1,006,392	13,917	1.4	6,391	45.9

注：「有効回収数」は、回収があったもののうち、当年産において作付けがなかった標本経営体等を除いた数である。

### (11) 調査・集計方法

作付面積は、関係団体に対する往復郵送調査を基に、職員による巡回・見積りにより補完し算出している。

収穫量及び出荷量は、関係団体及び標本経営体に対する往復郵送調査結果により算出した10a当たり収量を必要に応じて巡回・情報収集結果により補完し、これに作付面積を乗じて算出している。この場合の各都道府県の10a当たり収量は、調査対象品目について関係団体取扱数量割合（当該都道府県合計の出荷量に対する関係団体の取扱数量割合）がおおむね80%以上の場合は関係団体に対する往復郵送調査結果（標本経営体に対する往復郵送調査結果による自家消費等の量を勘案して出荷量から推計した収穫量を用いて算出）を、おおむね80%未満の場合は標本経営体に対する往復郵送調査結果を採用している。

### (12) 全国値の推計方法

本年産調査は主産県を対象とする調査であることから、全国調査を行った平成25年産の調査結果に基づき、次により推計した。

$$\text{全国値} = \frac{\text{平成25年産の全国値} \times \text{当年産の調査対象都道府県値の合計値}}{\text{平成25年産における当年産の調査対象都道府県値の合計値}}$$

### (13) 都道府県値の推計方法

季節区分のある品目であって、調査を行っていない季節区分がある場合の品目計は、全国調査を行った平成25年産の調査結果に基づき、次により推計した。

$$\text{都道府県値} = \frac{\text{平成25年産の都道府県値} \times \text{当年産の調査対象季節区分の値の合計値}}{\text{平成25年産における当年産の調査対象季節区分の値の合計値}}$$

### (15) 目標精度

本調査において、目標精度は設定していない。



## (参考資料)お茶ができるまで

- 生葉生産: 静岡県では年3回(一番・二番・秋)、鹿児島県や熊本県では年4回(一番・二番・三番・秋)摘採する。
- 荒茶加工: 摘採した生葉を蒸し、加熱しながら段階的に揉み込み、乾燥したものが荒茶。収穫した生葉1kgから約200gの荒茶ができる。
- 仕上茶加工: 茎や大きい葉をふるい分けし、乾燥し、味と香りを整えるため他品種や他産地のものと合組(ブレンド)して包装。

こうぐみ

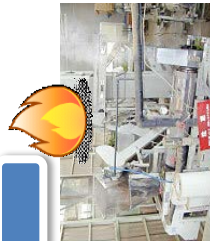
### 茶の栽培



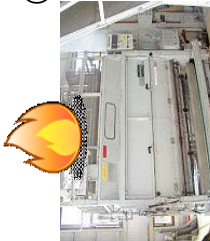
### 荒茶加工



摘採した生葉を投入



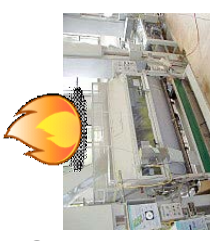
むしき蒸機 茶葉を蒸す



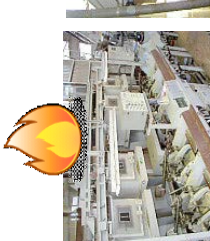
そじゅうき粗揉機



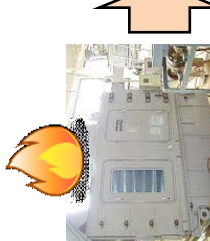
じゅうねんき揉捻機



ちゅうじゅうき中揉機



せいじゅうき精揉機



乾燥機 茶葉を乾燥



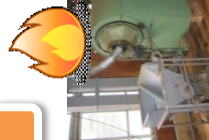
荒茶 (大きさが揃いで、茎も混じっている状態)

### 仕上げ茶加工



選別機

茎や大きい葉を除去



乾燥機

茶の味や香りを引き出す



こうぐみ台組機

ブレンドして風味を調整



包装机

パッケージ

### 仕上茶



仕上茶 (大きさが均一化され、茎も除去された状態)

# (参考資料)お茶の種類

種類	特徴及び主な産地	荒茶生産割合及び荒茶価格(H26年)
 <p>せん茶</p>	<p>[特徴]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最も一般に飲まれるお茶。新芽を蒸して揉んで乾燥させて製造。</li> </ul> <p>[主な産地]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国</li> </ul>	<p>[生産割合]</p> <p>61.2%</p> <p>[荒茶価格]</p> <p>1,373円/kg</p>
 <p>ぎょくろ 玉露</p>	<p>[特徴]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・棚を用いて曇や寒冷紗などで、収穫前20日前後の被覆栽培を行い、煎茶と同様に製造。</li> </ul> <p>[主な産地]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府、福岡県</li> </ul>	<p>[生産割合]</p> <p>0.3%</p> <p>[荒茶価格]</p> <p>5,746円/kg</p>
 <p>かぶせ茶</p>	<p>[特徴]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曇や寒冷紗などで、収穫前1週間程度の被覆栽培を行い、煎茶と同様に製造。</li> </ul> <p>[主な産地]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三重県、福岡県</li> </ul>	<p>[生産割合]</p> <p>4.9%</p> <p>[荒茶価格]</p> <p>1,513円/kg</p>
 <p>てん茶 (抹茶)</p>	<p>[特徴]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・玉露より長い収穫前3週間～1ヶ月程度の被覆を行い、茶葉を揉まずに乾燥して製造。</li> <li>・てん茶を石臼で挽いて粉状にしたものが「抹茶」。</li> </ul> <p>[主な産地]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府、愛知県</li> </ul>	<p>[生産割合]</p> <p>2.4%</p> <p>[荒茶価格]</p> <p>3,088円/kg</p>
 <p>たまりよくちや 玉緑茶</p>	<p>[特徴]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・煎茶の製造方法と異なり、最後に形を細長く整える工程がないため、茶葉の形が丸みを帯びている。</li> </ul> <p>[主な産地]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本県、佐賀県、長崎県</li> </ul>	<p>[生産割合]</p> <p>3.2%</p> <p>[荒茶価格]</p> <p>1,430円/kg</p>

資料：荒茶生産割合及び荒茶価格(全茶期)は全国茶生産団体連合会調べ  
参考：玉露、かぶせ茶及びてん茶を称して「おい茶」という。



## (参考資料) 飼料作物の貯蔵について

飼料作物は茎葉を乾草(乾燥)、サイレージ(乳酸発酵させて貯蔵性を高めたエサ、塩又キの漬け物のようなもの)にして貯蔵するのが一般的であり、サイレージにする方法は次のものがある。

### ラッピング



### 固定サイロ



### 簡易サイロ



